

【 巻頭言 】

次世代につなげるHBO・・・教育のあり方 【シンポジウム記録】

九州保健福祉大学 生命医科学部 シンポジウム2座長 右田平八

医師の働き方改革の推進に伴って、コ・メディカルへのタスク・シフトが新しいチーム医療での適切な役割分担として行われている。高気圧酸素治療（HBO）に関わる看護師，臨床工学技士においても従来の医師の指示待ちから，一歩踏み込んだ臨床評価を伴う診療補助へと伸展している。しかし，タスク・シフトに移行するために必要な医療職種の法改正も同時に行われて問題点も浮上してきた。

看護師，臨床工学技士養成校においては，新カリキュラムが2023年4月から実施され，臨床実習単位が見直されて増加している。HBO関連では，全国的にHBO施設と実施頻度が減少していることから，病院での臨床実習の中でHBOを行わなくても良いと通知されている。しかし，学内では学生に教授する内容として生体機能代行技術学の中にHBOが教科内容として記され，医療安全管理学では必ず教授する内容として「高気圧酸素治療装置を用いた治療中の操作」がある。多くの養成校は病院機能を持たないので，治療の実施は不可であり，HBO経験を有する専任教員は皆無である。

このような背景の中，山梨で起きたHBO装置爆発事故から25年が経過したが，その後大きな事故報告はない。この要因には，医療現場での医師，看護師，臨床工学技士の医療安全が徹底されている事に他ならない。

HBOの知識や技術のknow-howが一見うまく継承されているように思われる。そこで第55回JSHUM学術総会において，「次世代につなげるHBO・・・教育のあり方」と題して，現在の問題点と次世代への教育のあり方を医師側から2題，臨床工学技士側から6題が発表された。

清水徹郎学会長のご発案で発表頂いた内容は，HBOの発展に大きく寄与することから，編集委員長の和田孝次郎教授の編纂でシンポジウム記録として残す事となった。

是非一読頂き，現場教育の一助にして頂ければ幸甚で忝い。